

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LET'S READ 1 授業例①

M.S. 先生

指導計画表

(全6時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■ Pre Reading ・ プレタスク ■ pp.47・48 ・ 新出語句・表現の導入 ・ 本文の読解
2	■ pp.49・50 ・ 新出語句・表現の導入 ・ 本文の読解
3	■ Read and Think ・ タスク活動 ・ 参考映像視聴 ・ プレゼン作成
4	■ Read and Think ・ プレゼン作成①
5	■ Read and Think ・ プレゼン作成②
6	■ Read and Think ・ プレゼン発表 ・ まとめ

実践例

1. LET'S READ をどう扱うか

これまではLET'S READだけが比較的まとまった分量の英文を読むことができる題材でした。しかし、平成24年度版のNEW CROWNからは、各LESSONにUSE Readが設定されるようになり、まとまった英文を読むことができるようになりました。このように英文を読む機会が多くなることで、USE ReadとLET'S READ、それぞれでの指導の一層の工夫が必要だろうと考えました。そして、LET'S READでは本文を通読し、内容を理解した後にプラスアルファの活動を仕組むことにしています。

このBook3 LET'S READ1では科学的な内容に関する説明文が題材として扱われています。これまでのLET'S READでは比較的話の流れが追いやさしい物語文や対話文などが多かったので、生徒たちにとっては理解しやすかったと思われるのですが、説明文の場合には書き手の思考の流れに沿って読み進めていく必要があるなど、若干難しい面があります。また、読み終えた後に「ふ～ん。」と本文の内容に納得しただけで終わってしまう可能性もあります。私としてはこのLET'S READの学習を通して自然と科学技術の密接な関係を知り、そこから生徒たちに自然に対する敬意を払う気持ちをもてるようになって欲しいと願いました。

この単元では、目標を学習指導要領の「ウ 読むこと」の指導事項にある「(オ)話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」におき、本文の内容を読み取り、理解した後、最終的には自分の考えをまとめて発表できるような単元構成を考えました。

2. LET'S READ1 指導の実際

①簡単なタスクを用いながらの本文導入

このLET'S READ1で扱われている話題は、生徒にとって身近でありながらもなかなか気づきにくいものであり、非常に興味深いと思いました。です

から、いきなり、本文を導入して音読・内容理解を行うのではもったいないと思い、少し生徒をハッとさせたり、ワクワクさせたりするようなものにできないかと考えました。そして、第1時の導入場面でPre Readingとして何枚かの写真を示し(資料1)、それが何であるかを考えさせました。

生徒たちは「Biomimicryって何だろう。」などと言いながら写真と選択肢の言葉をマッチングさせ始めました。数分後答えを確認した後、次のような問いかけを行いました。

T: We get so many ideas from nature. What do we make from these eight things? You can see these eight things in different things in our daily life. Can you guess?

S1: オナモミ is used… あ、マジックテープ!

S2: 蚊…mosquitos' 針 is used 注射針.

S3: あ、そうか。でも、鯨のヒレや蛾の目なんて

一体何に使われているんだ?

T: OK. Please talk with your friends and write your idea on this worksheet.

「Biomimicry」という言葉と身近なものに関する内容ということへの興味からか、生徒たちの反応はとてもいいものでした。

②音読指導の工夫

内容に興味をもち始めたところで、デジタルテキストを用います。まだこの段階では教科書は開きません。教室のテレビにピクチャーカードを提示しながら全文を文字情報なしで2回ほど聞かせます。次に、新出語句の確認・練習を行ってから本文の音読を行います。通常次のような段階を踏んで音読を行っています。

①JTEまたはALTによる Model Reading

②JTEまたはALT主導による Chorus Reading

③デジタルテキストで教科書画面を提示し Model reading の後リピート

途中マスキング機能を利用して一部の単語や文を隠した状態で音読させる。

④ Buzz Reading

事前に目標回数(3回とか4回)を示した後、座ったままで1分間の間にできるだけたくさん読ませる。(後で回数を確認)

⑤ もう一度全体で Chorus Reading

⑥ デジタルテキストの提示画面を見ながらシャドーイング

今回も上の①から④までを、かなり時間をかけて練習したため⑤の段階ではほとんど教科書を見ずに、モデルリーディングの音声だけで読んでいる生徒もいました。⑥のシャドーイングでもほとんどの生徒が「通し読み」の音声に遅れることなく音読ができていました。

③ 内容理解の確認

さて、このようにして十分に本文を音読練習した後、前半の2ページ分の英文をデジタルテキストでテレビ画面に提示しつつ、黙読させます。このとき、テレビ画面を目で追ってもいいし、教科書を使ってもいいということにしました。何回か黙読させた後、P50にある Read and Think A の表に読み取った内容を記入させていきます。

動植物	作ったもの	類似点
fish	・ ・ ・ bicycle helmets	streamline shape
lotus leaves	・ ・	雨をはじく
beetles' soft wings	・	

ここでは本文が読み取れているかの確認ができればいいと考えていますので、英語と日本語どちらの記入も認めることにしました。生徒たちは自分たちが読み進めた文章を何度も見返しながら、表に記述されている言葉を手がかりに表を埋めていきます。中にはどう記入していいかわからない生徒もいたので、例を示しながら個別に支援を行いました。前半2ページの英文から表に埋められることがらを全体で確認していきました。後半2ページについても前半と同じような流れで音読から表の完成まで行いました。

ここまでの活動で、本文の内容はかなりつかめている様子が見られたので、4ページの内容を100程度にまとめ、何カ所か空欄にした英文を生徒たちに提示し、その空欄を埋めて summary を完成させることにしました。ほとんどの生徒が教科書本文を見ることなしに、空欄に正しい語句を埋めていくことができていました。

普段はこのように本文の内容理解を十分に行っていたところで、タスク活動に入るのですが、今回はさらに映像資料を提示して、身近なところで利用されている自然の知恵について更に理解を深めさせようと考えました。

④ 資料映像の視聴

そこで、まず更にいろいろな例を紹介しようと考えて、ジャニン・ベニユス氏による biomimicry に関するプレゼンテーション (http://www.ted.com/talks/janine_benyus_biomimicry_in_action?language=ja) の映像を生徒に提示しました。そして、教科書で示された例とベニユス氏が映像の中で示した例の中から印象に残ったものを一つ選び、それについて自らがプレゼンを行うというタスクを生徒たちに与えることにしました。日本語字幕付きの18分弱の映像でしたが、ネイティブの英語であることと、専門用語がやや多かったため、生徒たちは理解するのにかなり苦戦していました。何度か途中で映像を止めたり、再度繰り返して流したりするなどして、生徒たちに映像でどんな例が紹介されているのかメモを取らせ、一番印象に残ったものや、興味深かったものを選ばせました(資料2)。生徒たちは次のようなものを選んでいました。

S1: クモの糸。クモの糸が鉄に生かせるとは想像しなかったし、鉄が軽量化したことにより将来の私たちの生活に生かされていくのが意外だったから。
S2: クジラの尾。クジラは水中にいて、尾は水を押し出すために使っている。でもそのクジラの尾を風力発電の羽根に使うという発想がすごいと思いました。水中で泳いでいる生き物の中でクジラの尾が特別な形をしていたんだなと思いました。
S3: カワセミから新幹線の先頭車両。くちばしの形を生かして新幹線の先頭車両に結びつく発想がお

もしろいと思いました。

S4: 合成木をビルに張り巡らし、水をくむ方法。まず合成木を作ることがすごいけど、ビルの壁に貼り付けて水をたくさん取り込めるようにするってことがすごいと思う。ポンプなしで水を上に上げられるってことにおどろいた。

⑤調査活動とプレゼンの作成

生徒たちが選んだ例について十分な資料が見つからない可能性も考えて、この段階では二つまで調べる対象を選ぶことを認めました。その後インターネットで、何の生物（自然）の特徴が、どんなことをきっかけに、どのようなもの（技術）に応用されていったのかについて、個々にワープロソフトでレポート形式にまとめたり、プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションの形にまとめたりさせました。まとめるための言語は、本来ならば「英語で」と言いたいところなのですが、言いたいことが十分伝わるということを第一に考え、英語でも日本語でもいいということにしました。

情報源が英語や他の外国語のサイトでその内容を理解・整理するのに手間がかかってしまったり、なかなか欲しい情報が見つからなかったりして、まとめるのに苦労した生徒が多かったようです。そのため、結果的に本文の内容理解に費やした時間とほぼ同じ時間を使うことになってしまいました。

⑥プレゼンの発表と情報の共有

完成後はALTを交え、全体で簡単な発表会を行い、お互いが調べた情報を共有しました。一人あたり1~2分程度の発表でしたが、どの生徒も他の生徒の発表に熱心に耳を傾けていました。それぞれの発表の後にALTから発表内容に関するいくつかの簡単な質問をしてもらい、本単元の活動をまとめました。

3. 実践を振り返って

このLET'S READ1の内容は私自身も初めて読んだときに興味をもちました。そして、それまでの自分のLET'S READにおける指導の仕方を振り返ったとき、十分に題材を教材化できていなかったのではないかと反省しました。そこでこの単元ではリーデ

ィングを通して何か生徒たちが発信するような形になることを願い、このような単元構成にしました。

概ね生徒たちは意欲的に活動に取り組んでくれました。生徒たちはこの単元を終えるにあたり、次のような感想を残しています。

○自然からたくさん学ぶことがあると思いました。みんなからもいいと思ったことは参考にしていきたいと思いました。

○視野を広げたり、見方を変えたりすることでいろいろなアイデアが得られることがわかった。

○自然から得られるものが多く、自分たちだけの世界ではないとわかった。

しかしながら、私個人としては次のような反省点も残りました。

①若干、途中で生徒たちに見せたジャニン・ベニス氏の映像の情報量が多すぎて、一部の生徒には「難しい」と感じられてしまった。

②Biomimicryの具体例を詳しく調べるとしてもこれもかなり専門的な知識が必要となるため、まとめ自体が生徒たちにとって難しいものであった。

今後もこのようなリーディング教材を扱っていく際は、単に書き手の意図を理解するだけではなく、書き手の考えに対する自分の思いや考えを発信できるような授業形態や単元構成を構想していく必要があると感じました。そうすることで、生徒の主体的な取り組みを促し、更には4技能統合を目指す指導にもつながるのではないかと考えます。